



義經勲功圖會

前編

三

~ 13  
3331  
3



義經勳功圖會前編卷之二

目錄

伊勢三郎屬牛若丸條 同圖

牛若丸對面秀衡付六韜三略之傳

牛若丸初秀衡と對面乃

吉岡鬼一法眼之事

牛若丸竊見秘書條 同圖

白河港海最期之條 同圖

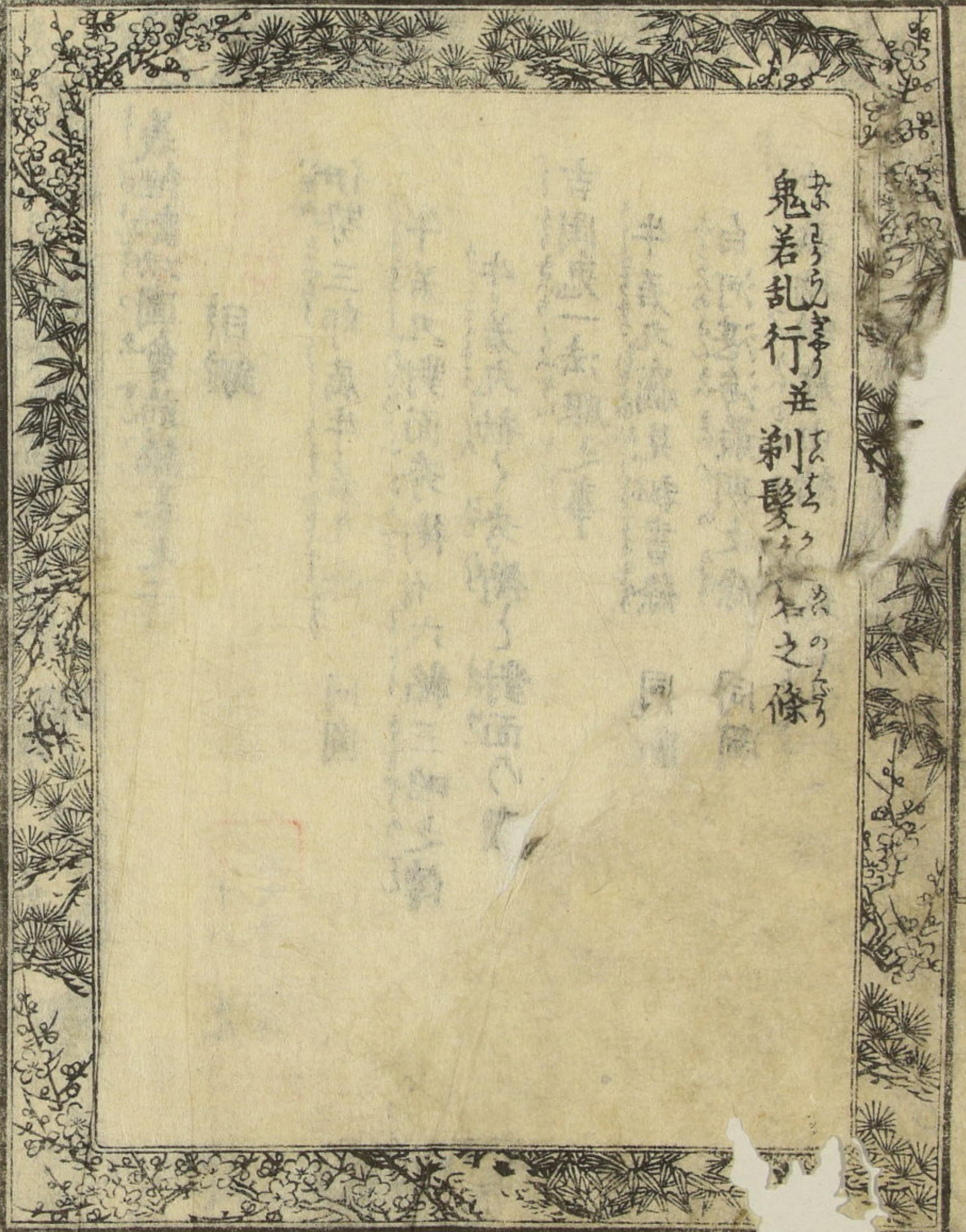
武藏坊辨慶由緒 鬼若乱行乃圖

大正十八年九月  
本大學出版部

武藏坊

3331  
5

鬼若乱行 在剃髪 名之條



義経勳功圖會前編卷之二

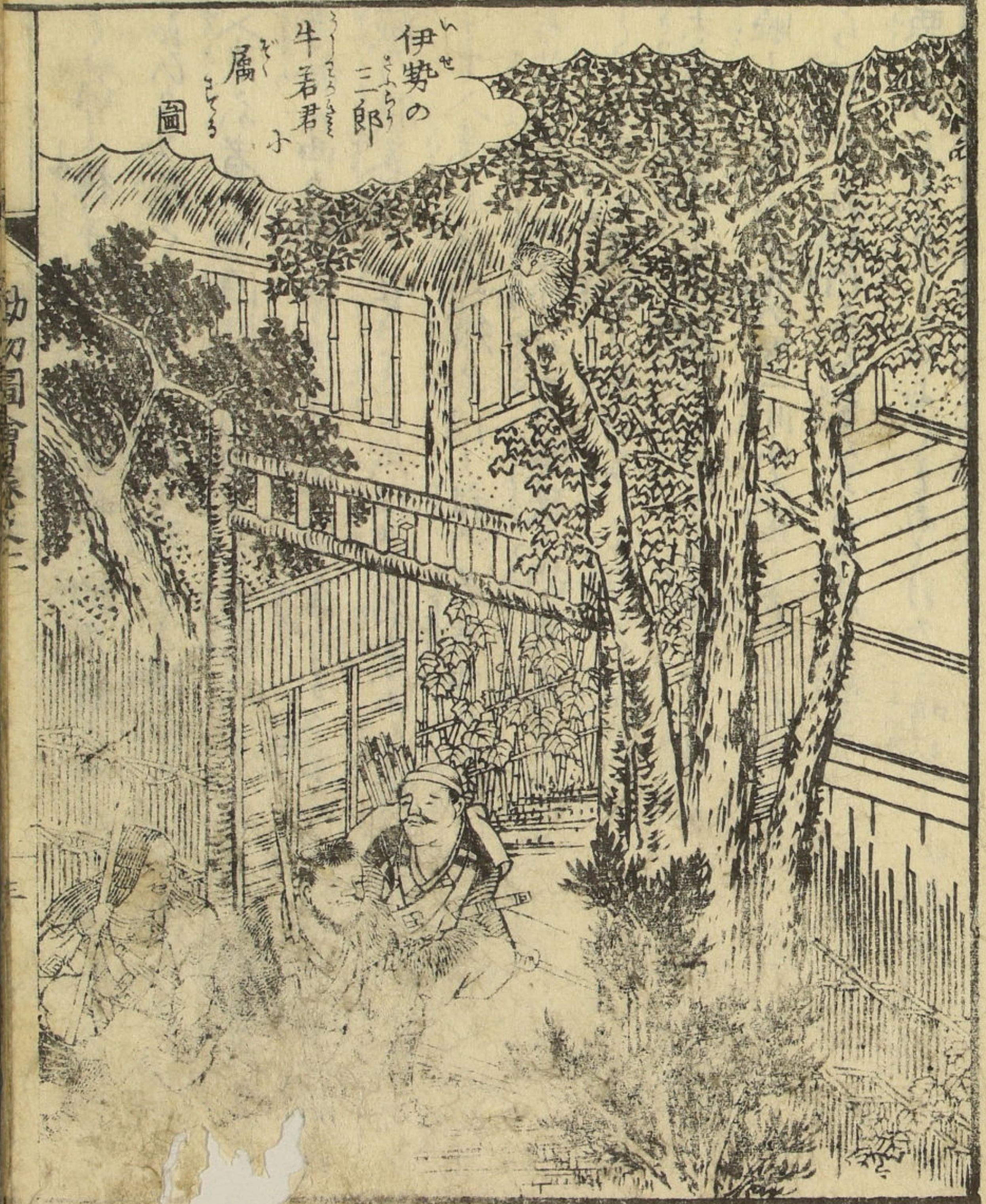
伊勢三郎 屬牛若丸條

且說御曹子と美佐崎が館乃がき出馬小はるき落延たすい  
ころが夜既り明ころりたれむ。女心我安んトの村老小路成とい  
あふ小前路と横山のなる室に八島志野乃河関山あど告奉つる  
板志す方へ來きり。攝次小室乃ハハあき待といひうども  
本道成行。美佐寄う退人小通られても面倒なりを記みり成  
行むやとて。卿民小室内成とい隅田川造我東り降。駒をこや  
をく記も小程小二日路成た一日小弛む。上野國板鼻といふころ  
る。既り其日も西山小波し。前路暗く。原来不知案内  
あきむ。其所此所と申ひたす。い乗る馬も疲る。跡を事  
〜。餓小く降。身を身。氣力なく大い困みたす。

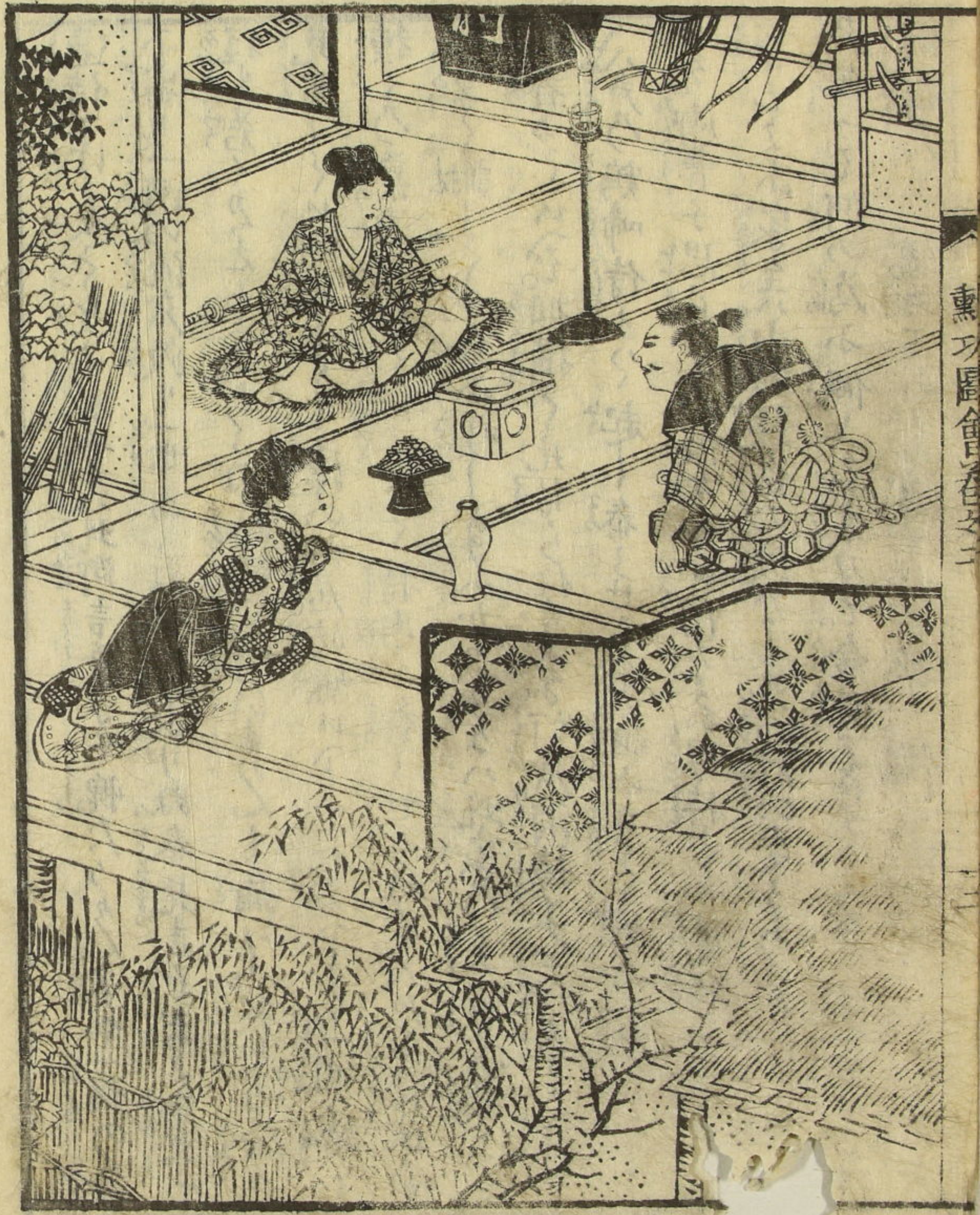
かの圖會前編卷之二

一村にける杜乃興小一点の燈火出小刀え々を扱ち人家有と嬉  
 しく思召立侍る見りふあやの萱屋あり年久しく住荒  
 里と刀えあがら木立物ふ里苔小埋る柴乃編麻格子羊蹄  
 と寂故はきさり願る効歩寄下まき是は行暮る旅人あ  
 路小迷ひ宿を需ひ難流小及ひい苦くくすを一夜か明させ玉  
 へと言入るふ主と覚く二十許の女乃声ふる樟子の影より寂  
 安死御更なまきとも主八宿小侍る子今夜更てや歸りいえ入小  
 勝く情あ死者ふいへ苗の黍せ却く何なる辛能刀毎奉んも  
 量らまいひ子よりた死所小宿王玉んり他乃家我御頼といへ  
 とど答へる御曹子亦作らるはよりくまも苦くう守家主の御  
 飯宅有る兎角仰ある其時何方へも死出いん今宵一夜八曲く  
 明させあ色衣も香をも知人ともるとも馬衣外の方小寮を置

遠侍はげしく坐し多女此御言葉小や愧たりく笑や一樹の陰  
 小宿り二河の流成波も世あぬ更と来りぬ奉見まをとお御羊の  
 狂も若く刀えあふあきぬ旅路小呻ひ玉んも痛り其処余り  
 見苦くい何処もも津の住居妨嫌いへも此方へも一間詰り  
 種く乃菓酒飯を信く持出く黍せくれを大死小恨び玉  
 ひ厚く謝く十分小喫し多女やけるハ此家乃主八世小勝り  
 曲者あくいへ相構く見付られり多女灯を消樟子と引まき  
 八声乃鶏啼侍り起り黍せあんと咽小言く興乃方小と入  
 々る御曹子思召るハ彼女如何なる男持く是程ハ  
 察とふ家主ハ山賊強盗の徒なるめ何討の更らあ  
 瓜働くを何の為小個くふ太刀ぞ金味刀毎くまきす物  
 許抜く膝の下ふた消せよと詠一燈を殊小明く



幼少園會卷之二



幼少園會卷之二

とひー樟子廣く引用直垂の袖を顔小押當く空睡しと窺ひ  
 玉ひかり。斯く其夜も四更と覺しき頃表の板戸荒らうと押開  
 入来る者あり。須波主乃男よと直垂の下よりさし洞を足すへ  
 手齡元曲五詩ある男。身の丈六尺余なるが。昔の兼深し直垂小萌黄  
 威の腹巻成し長き太刀成横帯。右手小手鉾提左手小炬火輝照  
 して入来ふ後小續く日。狂乃若者曲五人或は猪の目彫り大鏡或  
 ち薙鎌捧長刀亦弓筋服狭。胡蓀肩ながら唯今更小逢たうよ  
 と刃えろ。眼成賦り息つき荒くあへる。母屋の簀子小立踏しと女荒  
 未造の西天王とも謂べし。何さ女弱き女懼るるも理よと。尚も空  
 睡し窺ふ先の男一間小人在し力なく。大眼成光らし白服固しある  
 ら裡へりぬ如何あふ更をういつしんと。壁小耳成當く聞ゆる。彼男  
 悪さげある声しと。ややくとあけなく呼起す小稍有く寐をれし

さふしと唯今更しとひやとひ小男あふ怒るし。一回小居るを如  
 何ある者ぞと替む女答ふ。さし不知旅客あるう来列ぬ踏小也  
 義く行方遠し一夜の宿し宜しと。良人の田主もまを吐くぬ  
 中せども色成も香成も知んぞあると作く。黙止がうと見くせよふ  
 其市町の恥しきふ一夜の宿成糸くせぬと。若き人乃更今宵一  
 夜を何苦しうるべき曲く夜宿成糸くせ更とそやう。男呵くと  
 けしひ。かといはるる扁鄙の人あまむむくはけき人との思久慢しに  
 色成も香成も知んぞあるとの初小愧く宿糸くせしと。や。あ。能。や  
 今宵一夜何苦しうるべき曲く夜宿成糸くせ更とそやう。脚曹子心中小感し  
 荒夷小も似気なく情ある者多悪さげある更成しと。あ。能。や  
 の錯小なるんすとの成命冥加小さうかひなるよと。能。あ。や。ひ  
 も耳成清し皮も人を彼男の義も。客人の神成るる小遠くと

五日近く二日の内小まは逢玉ひいと刀入りたり。おれも今日新老の  
弥事小逢更常の習ひなり。内酒あふせよとて女の童小瓶子抱せ  
妻先小まきく一回へ入まり。客人くんと呼ぬ。御曹子も眼覚るる。面  
しつ度成政もみよ小まの男孔成たり。妨嫌身屋小一夜成砂一玉  
更心苦しく思召らん。内者も何あつくも一盃成傾け旅齋成掃  
ひ玉ひとちかたる。御曹子其厚志成謝しつ酒を嗜みひ守とく  
きこしめさす。主の男中やふおれぬ宿あれむ心成ゆりつらぬも理え  
去あがらぬ。そ怪の男少くいとも其斯く侍らうら。如何方系  
事いとも内成芳なり。おふ及たす。安意く一盃成きこしつ。良も成  
宿直中付ひえん。とて表小向ひ如何小者とも疾来よと呼ひさす。始  
主小深ひ一男五六人出来りぬ。主が曰今宵客人成請たり。内  
用心有と刀も汝等へ不寐宿直仕ま。とて一柱しき老まを即時小

斬り捨よと命トらまむ。若者ホ々領掌しつ表へ出たり。主掻三  
く亭の幕押上燈臺兩所小燈しつ。互り押張せ前束解くつらげ  
太刀膝の下小置大乃声風乃音少も。心成賦く守護する。粹。の  
とてつらつらと。御曹子も其志成感しつ。酒滴許用ひひ  
是彼内物結ある小。主の男中なるハ斯知こ小なり。あつさる上も  
内生國及び御名成頭させり。此近國の人成毎もみそあつさる。案内  
しつ。あつせん。とて美意面小溢り小ぞ。御曹子も始よりけ者の粹  
成窺ひもふ小。相貌堂々威風凛々しつ。顔たましつ。内庸あつ  
す前小日蔭老なり。と言ひ成思ひ合せむ。由然有老の零落しつ。  
取杯するもあつらん。さきど彼熊阪成。遠く仁義乃端成。  
各へ一老し刀もまむ。美名成言成。さきよ。ハ郎黨小召使人物  
と思惟の作たり。ハ世小深く包名なり。王の芳志の結しつ。小谷

兼あん構く人少漏しゆいそ。是を平治の乱小七び失し。左馬頭  
 義朝が赤子小牛養とく。鞍馬小登り。出家得道もを念ずり。か  
 聊所存有く鞍馬成忍び出眞死(赴)くなり。今乃名々左馬九前  
 義経しやかりこそ曰々至の男是成成く大小孩き。倭小席と秘  
 志より。低頭平身し。荒洞成ちり。流し。須臾のを得言有  
 くる。稍有く鼻あきあき思ひし。ずや。同あきせす。争りあり  
 ちも。命死恐有あき。禁がぬ小重代の主君少く。あいぞや。斯や  
 乃く少く。内不審い登し。原来某父也。伊勢国二見能連とや  
 大神宮の神職少くいひる。が。一年九條上人と月配仕り。成明  
 筆の綾言小依く。知らる。伊豆国長島と。所。亂さ。年月成送  
 いひ。小配所の徒然成慰ん。妻成送いひ。小後方。懐妊仕。其  
 七月と。小父不圖病死仕。其母某成。母方の伯

叔の方小養。同満く。安産し。伯父の懐少く。某成生し。互い某成長  
 小後い。父も如何なる人と。同い。小母洞あき。小志り。物結いひ。  
 叔。そ。父も伊勢能連と。養を。某も伊勢三郎能成。名無い。母  
 平素中いひ。八汝が。父能連。八頭殿と。主臣乃。約成。大恩成。家り  
 たり。源家の恩成。忘却を。せ。と。教刺仕。一。於。天晴源家の公達  
 小。隨。逐し。後骨碎身。し。くも。恩惠成。報し。も。ん。と思。い。心。想。り。か  
 平治の乱の。後。平家の。二。門。権柄成。掌握し。源氏の公達。或。ハ。討。ま  
 或。ハ。寛。く。散。く。小。成。る。を。其。申。受。た。く。無。念。乃。光。陰。成。送。い。し。小。平  
 家の。粟。成。食。し。し。心。ゆ。る。あ。き。切。取。強。盜。成。た。し。今日。迫。露。命。成。  
 い。ひ。小。三。世。の。奇。縁。成。ず。し。君。不。平。屋。小。宿。里。の。い。成。名。成。  
 一。の。事。年。来。の。重。く。此。上。や。い。成。死。是。偏。小。八。幡。大。善。産。魔。利。支。尊  
 天。乃。導。す。の。い。ひ。小。了。そ。と。結。一。洞。小。を。小。な。り。御。曹。子。も。大。き。小



内侍あり。人甲斐もあれ今の身成も名無あへて主後と知あへ  
まの不側さよ。預も家乃滅亡成無念小思の何卒大義成男ひま  
驕る平家成代亡一源氏の世したるやとく。興秀衡成頼も下  
ふくく。深拙光重のび三條播磨成亦改小く熊阪成討美佐崎  
成斬く是迄為延来り。追落もあく結ひひるをむ。三郎夫婦その  
膽略勇敢成感しなり改く主従の御賜成賜り律の一字成頂戴し  
く。是より能成義成と改めり。去後小長物結小其夜もゆ後り  
くをむ。御曹子も播磨成更氣遣し。立出るらん。此氣色あきむ  
義成妻小向ひ千金の御身成獨り旅路小赴せむらんやうなり。某  
も若者ともし俱小興成追送も人程前と改ふ郎黨ホと苗主  
成守り明季の春成待ひ。其頃も過り。何方なりとも再成  
嫁ひ。武士のあへ命成君小なる上る再會の期も量ぐ。と中

々まむ。妻之伏枕も。伎初の旅だゆ。主の苗主ハ物憂小是成永き別  
小あるを。しと。神た。ぬ身乃思ひま。願くも興と中。人追も  
俱く下。下。と泣くまむ。義成氣色損。浩る大義と抱ゆる君の  
成供。秀衡も方へ到らん身の義成。そ恩愛の契成捨り。ひく  
書成具。く下。よし。興及武士小指させん。其義なり。永  
く離別せん。むるそ。眼成怒。く。叱る。妻も大小孩き。前ト  
せ。妻が誤かり。必ず成供中。宿させめ。とく亦。雨。と。泣  
伏。り。義成。傳。く。色成。和。ら。げ。跡。乃。ま。ど。も。何。是。と。託。し。跡。乃。和。ら。げ  
癖。と。く。列。も。及。さ。ぬ。梓。乃。唯。二。筋。小。思。ひ。切。御。曹。子。の。成。供。し。成。後  
一。故。御。成。跡。小。乃。あ。り。と。出。行。り。り

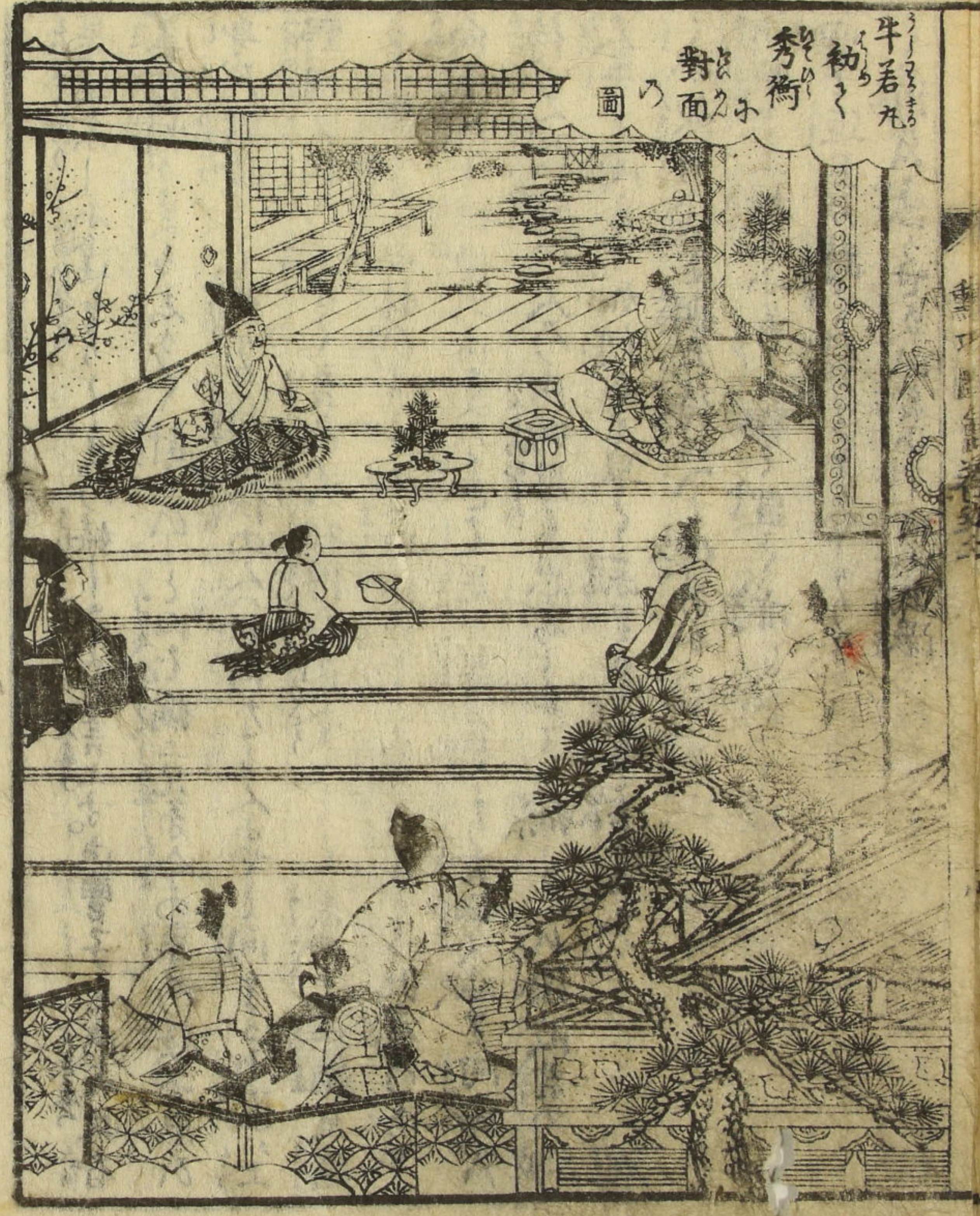
御曹子ハ。む。寸。義成。成。得。め。ひ。成。成。斜。を。寸。呈。柄。成。立。く。約。成

牛若丸秀衡對面 六韜三略之傳

急げせのふ種小宇津宮明神成通拜し。終方原小さくく。實堅中  
將の到るる候と眺るの野辺の白真弓押張素弾一ちる  
浅香の浪の花ぞも。且見上る古歌の教さるる。浅香山あさくハ人  
小をきし。忍の里成越ゆ。此所ぞ各小の伊達郡厚樫山小は  
く。中へ入む。前路小も道成急ぐ旅客。何り御曹子作々ハ山當小  
の各山とまたり。你後更もまう。の彼後人いさく。や。や。義盛彼呼  
止めく言同よしの。彼後小のりい。ま。ま。物同トさん。待  
のきし呼々。旅人。何更小や。と。振返る。御曹子馬上より  
是成んも小。別人が。す。橋二未治たり。く。大。小。如。何  
小や。橋二少くハ。さ。く。作。あ。橋二急小馬より。下。下。前小  
頭成。低。扱も君美佐崎が。入。せ。い。内。島。小。待。と。作。け  
ふ。待。も。く。く。先。下。里。も。い。一。更。と。心。あ。す。

是迫糸一。小逢なり。一。度。の。妹。一。さ。よ。と。言。上。す。内。曹。子。も。内。長。悦。者。  
美佐崎。が。度。ま。あ。く。計。ら。い。と。曰。を。橋。二。兄。弟。今。の。事。乃。換。小。思。ひ。  
身成。戦。慄。一。く。恐。ろ。扱。内。供。の。人。如。何。か。る。人。や。と。同。る。小。渠。上。  
野。國。足。柄。の。着。小。く。吾。為。小。ハ。相。傳。の。郎。黨。く。と。義。盛。が。由。緒。成。治。  
の。小。橋。二。大。の。小。恨。び。よ。と。是。迫。内。供。の。一。の。り。去。あ。が。り。此。度。乃。下。  
向。も。偏。小。摠。使。の。由。度。た。ま。を。足。下。等。ハ。是。より。古。卿。へ。返。り。討。筋。成。  
待。も。人。故。卿。の。人。乃。内。物。思。も。思。あ。く。ま。く。痛。く。い。須。波。君。の。御。  
大事。と。成。む。の。如。何。小。も。早。く。と。赤。里。も。言。々。を。内。曹。子。も。俱。  
く。小。故。卿。へ。返。り。期。成。待。い。と。作。あ。る。小。と。義。盛。力。な。く。と。く。く。  
内。眼。中。上。橋。二。小。善。く。頼。置。く。亦。足。柄。と。ぬ。り。た。る。と。  
四年。追。豆。成。時。く。待。り。る。ぞ。く。り。り。内。曹。子。も。又。橋。二。小。傳。事。  
く。道。成。急。ぐ。の。い。名。小。一。の。武。湯。の。松。成。か。る。達。源。川。成。後。

幼の圖會卷之三



平若丸  
初  
秀  
対面  
の  
圖

力  
刀  
用  
三  
三

華  
中  
國  
會  
社  
藏

宮城野の原擲躑躅千賀塩竈籠る島都の土産小と録トク人安  
根羽の松茂九よそふりく。栗原寺小ぞるる。播二伏と別當  
乃坊入をり。躬平泉小弛到。秀衡小堀く。中らるる。兼く中  
あま一源氏乃公達左馬頭義朝。の内末子遮那王殿。執轡馬小  
在。公勸をり。當國近。内供中。尾忍の大宮司季胤。許小く。御首  
服あり。今の内各八源九郎義経。公と中なり。栗原寺の別當乃坊小  
入。きりひ。急ぎ御進。茂素く。せり。とぞ。中らる。頃日秀衡。之同那小  
紀。さ。病床小川。居。る。ま。が。大小。比。び。嫡子西城戸太郎國衡。二男伊  
達冠者安衡。茂呼。く。や。る。る。ハ。吾。昨。夜。粟。鳩。一。羽。家。内。入。れ。と。後。見。り。り  
何。換。吉。瑞。あ。る。ん。と。思。い。が。果。く。播。二。末。治。が。働。小。く。源。家。の。公。達。當  
家。茂。頼。く。違。く。との。御。下。向。く。そ。泰。ふ。る。恐。多。る。此。君。ハ。清。和。天。皇。の。内  
未。左。典。厩。乃。八。男。小。治。く。せ。り。ふ。ぞ。早。く。御。迎。小。来。ま。と。命。ト。多。き。た。國

衡安衡子。一際美麗小鏡。一兵三百五十騎。茂隨。栗原寺へ。弛  
泰り。其跡。少く。秀衡ハ。病中。な。り。手。足。分。清。め。為。帽。子。取。り。ち  
被。き。直。垂。茂。き。り。且。近。臣。茂。の。侍。郎。宅。茂。拂。よ。庭。乃。落。葉。拾。ひ  
草。引。杯。指。揮。し。今。や。遲。し。と。お。待。ま。り。る。心。遣。を。殊。勝。く。り。國。衡  
安。衡。と。栗。原。寺。へ。弛。到。御。迎。ひ。中。上。を。ま。す。御。曹。子。ハ。喜。悅。限。なく。兩  
將。小。案。内。せ。り。ま。栗。原。寺。茂。ま。く。平。泉。の。城。へ。泰。里。乃。別。當。の。坊。小  
九。衆。徒。五。十。人。茂。警。備。乃。乃。内。供。を。ま。り。ぬ。往。な。く。平。泉。小。丸。系  
玉。ひ。ら。秀。衡。出。迎。く。上。段。の。間。小。請。り。なり。先。御。人。品。茂。見。奉。る。小  
前。小。鏡。如。き。美。男。少。く。然。れ。武。毅。茂。略。高。小。願。ま。自。然。と。大。將。軍。の。機  
然。具。足。し。る。を。感。激。の。余。里。涙。茂。流。し。低。頭。平。身。し。く。中。さ。き。色  
秀。衡。茂。扁。部。の。亮。も。不。思。召。子。金。の。内。身。の。違。く。と。御。下。向。い。ま。の。泰  
さ。よ。某。斯。く。い。上。ハ。思。息。く。ハ。中。小。及。不。守。興。羽。兩。國。の。大。小。各。三。百。六。十

人御幕下小蹟遂させ守護たしをり人假令と清盛日本中の勢と  
委しく攻来いと九微塵小取守奪んま何の難まうん今日より八花  
成素山乃安き小置時節成待く大義の御旗成翻させめんと寂烟  
小言上せりまは御曹子も守りて懇志成辨しり萬事秀衡と  
頼思及より内後ある秀衡須堂一叔國衛安衛及ハ即堂亦小對  
ハ君此度當國ハ下向有一度偏小橋次未治の老覺小倚れ秀衡  
成秀衡と思ふ人者ハ橋次小引出物せよとを中せん依り嫡子玉衡  
白皮百牧鷲鳥の羽百尻兼馬十疋白鞍置とぞ打りりる是小亦す  
二男安衛も教乃引出物成子ハを其余の一族即堂成もと打  
出物をも往小橋より身埋り如く小積重り秀衡是成りんち  
突ハ鹿乃皮鷲鳥の羽結布太刀の今ハ不足あり吾も海辺り  
好む所乃引出物せんと貝摺なる唐櫃の蓋小砂金一蓋入ると取

せり。橋二余の嬉き小將小是貨乃山小ハ心地ハ此度君乃御供せ  
す赤阪の驛小ハ熊阪ハ小貨物成奪ハ命成失ハ小其難成  
避今亦斯莫大の引出物成得まの嬉しさよ是偏小鞍馬山の多門  
天乃御利益ありんと深く偈仰し秀衡父子小并謝し平泉成辞し  
夫より交易の度成たり果亦七都登りり斯く御曹子も秀衡と  
且暮大義の高議有と魚秀衡老功の人小ハ同勢成素まら小いあご  
時節到来せ守り中ハ急小兵馬成動寸命を命ハ御曹子も  
秀衡の子息小ハ弓馬の術成初と字あり就中奥州ハ良馬成産ま  
度其頃天下隨一ハ只管馬術成鍛練あり小天性の奇才なれハ遂  
小其妙所小ハ今ハ高岸小飛上り深淵成躍越る小度心の終末  
まハ國人其堪能成見聞し驚嘆せし者なり御曹子亦思  
長々ハ吾既小劍成振弓成彈く敵成討まを恐らく天下小石小出





亦軍書武經の昔成倍り。曾く六編三畧乃卷成得り。凡軍勝り  
 圖說及び西十二箇城の秘法陣制八十一變順逆十八變天門取捨乃  
 傳曲尺奇正進退千變萬化の傳規都く武家の宗書三十餘卷  
 是皆大公望かまし所の霸者傳小く。張子房が黄石公よりま  
 くる秘書なりと云。其後吳越の王元推固乃惠宗延小紹く  
 九經成需得朱雀院の義平四年甲午年小飯朝せり。帝殊小御感  
 有く。吾朝の寶是小不如武臣小傳よと云。其書成撰ハせり。小御  
 先祖左馬頭滿仲朝臣と云。智仁勇成兼備し。通天地將の理小明か  
 承名將たりと云。大江惟時小紹く。八幡宮の寶前小於く傳へらる  
 也。則神樂成奏し。青白乃幣成まき。神授の印と云。中英小  
 黄石公左の方小大公望右の方小張良が下邳進履の圖成りけら  
 是。是本末武家の全体秘授なりと云。惟時謹く軍神小向

ひ繚帛の中より筆取出し十有八變。是成授く。滿仲公齋し。五  
 更三日三夜小く。是成受り。然ども漢本なきを。文義精微小  
 趣く。續明むる事能き。和字小改國字成。以て書授ら  
 せし。小ぞ文義燦然と云。通せし。号く訓閱集と謂  
 たり。其後星霜推移く。大江雅匡此書小通達し。其頃八  
 幡太郎義家公當國乃兇徒成征せん。下り。賊軍強く度く  
 敗り。引返り。彼兵書相傳乃義成願ひ。小則勅  
 命下り。殿上小推匡卿小講せさせり。八幡殿是成階下小在り  
 聽聞あり。忽ち其昔成悟り。再度當國。御下向有く。遂小兇徒成亡  
 一のひぬ。其後ハ彼書成代の帝の御室藏小秘置り。敢て他見  
 成許し。玉ハ。小當時吉岡鬼一文武の戈小長せりと有。彼秘書  
 成預置せ玉ふ。承りぬと語る。御曹子大小感心。心中

小我満仲義家小八不及おまわす金如何小もいかに都みやこ登のぼり鬼おに一ひと方小身こみを  
 倚よ其書そのよ以も親望おんなむ一見いけんもも更成得またえを怨敵うらたも手家ていけ成亡なるは父掌ちちのて  
 の裡うち小有鬼ありおに一ひと許容きよようせせと人ひとをを一太ひとのの小切害せつがいもも奪取うば人ひともも思おも召め  
 是こゝより唯都ただみやこ登のぼり人ひと更成またえ乃しか思おもひひも秀衡ひでゆき小告こあかをを自然都しぜんみやこへへん  
 ばへ吉岡きちおかが用心ようしんせんも圖身ずみ子こもも心中しんちゆう深く秘ひし秀衡ひでゆき父子ふし小も告あか  
 玉守たまもり假初かりはつの推行おしゆかうの如ごとく平泉へいせん成立なりた出で潛小都ひそかみやこ成なりてて其地そのちをり  
 のひも平泉へいせん小八こはち翌日あしたままぐ御曹子ごせうし自みづかららバ頗おほ致ちかきき八やち方ほう手配ていはいしし  
 尋たづねねををままととも不知しらずをを経方せうほうををくく止とめめたり

吉岡鬼一法眼か事

斯かくく御曹子ごせうしを平泉へいせん成なり忍出しのいで駒小任こまにく馳か五ご程ぢゆう小日成こひぢゆう経へく足柄あしがらある  
 義盛よしかげが許小着きよこちやくのの三郎さぶらう夫婦ふうふ大小おほこち孩こきき何なにのの為ため来きりり多おほるるそそとと同おなじ  
 る小兵書こへいしょ親望おんなむのの都みやこへ登のぼりり作しるる色いろ八やち終しゆうるるを御供ごくわい中ちゆう山さん久くとと中ちゆう

和漢  
西洋

書籍賣捌處

大阪心齋橋博労町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛



